

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400351		
法人名	(株)フォーシーズン		
事業所名	グループホームなるみの憩 2階		
所在地	名古屋市緑区鳴海町字向田151		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsvoCd=2391400351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsvoCd=2391400351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年12月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念【ユアライフ～あなたらしい生き方を～】の理念に基づき利用者主体の生活をもとにできる限り自立した生活が送れるように残存能力の維持生活の質の向上に力を入れている。また季節の飾りつけを利用者様と一緒に作り季節感を味わえるように工夫している。

①調理など家事、週に一度の手作りオヤツを利用者様と一緒に作り、やりがいや楽しみの提供出来る事の継続、応用力維持に努めている。

②利用者様個々の生活リズムに合わせた関わりを心がけ施設スケジュールを強要しない。

③健康維持の為食前体操を15分から30分行ったり、日々の散歩で体を動かす機会をとっている。

④月ごとの行事を各職員で担当し趣向を凝らしたレクリエーションやお誕生日会が企画されている。

コロナ禍前は運営推進会議、認知症カフェ、等で交流する場を設けて地域交流をしていた。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、ホームの基本理念をよく理解しており、職員と一丸となって、利用者がホームで自分らしく生活出来るよう取り組んでいる。家族からの信頼も厚く、コロナ禍で様々な制約を受けていることに関しても理解が得られている。職員のスキルアップについても、研修や勉強会・日々の業務の中でのOJTと、前向きな取組みがある。職員と管理者は良い関係を構築しており、「話がしやすい」や「提案を聞いてもらえる」など、職員の声として確認できた。

コロナ禍により、大きな制約を受けている「外出支援」や「地域交流」についても、感染状況を見ながら対応している。ホーム内で出来ることを積極的に支援しており、利用者が閉塞感を感じないよう取り組む姿勢は高く評価できる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員/外国人スタッフへの落とし込みを継続して行っている。徐々にだが理念の共有は出来ている。	ホームの基本理念は、毎月行われる会議の中で話をする機会を設け、職員に周知している。外国人職員にも分かりやすく説明し、理解を得られるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状コロナの影響の為地域との交流はほとんどできていないが地域の方がお祭り等のお菓子を届けてくれたり電話で地域の様子を教えてくれたりと交流は持っている。	コロナ禍により交流機会は制約が多く、地域のイベントの開催も少ない。現状では、感染防止対策を講じた上で、町内会や老人会の催しに参加したり、電話での情報交換程度の交流となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解や支援してもらえるよう挨拶や地域の方と利用者様とが散歩等で会話できる環境にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為開催はしていないが電話連絡を行い定期的に情報共有している。	コロナ禍により、運営推進会議はホームで活動状況や利用者の様子を議事録にまとめ、会議メンバーに配付している。書面を配付するだけでなく、電話で説明して意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為控えている状態	コロナ禍により、行政への訪問機会は限られているが、電話やFAXにて必要な情報や意見交換は出来ており、不都合はない。生活保護受給者の入居もあり、定期的に行政担当課との交流を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1会議で身体拘束の有無の把握を行い定期的に勉強会も行っている。扉入り口は職員の見守りができる状態では開放するように務めている。	毎月行われる会議の中で勉強会を行い、事例検討などを行っている。身体的な拘束だけではなく、スピーチロックについても理解し、適切な対応を心掛けている。1名の利用者はミンを着用しているが、絶えず解除する方向で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度会議で意見徴収を行い身体拘束、虐待の可否について学ぶ機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で制度についてや必要性について学ぶ機会を作り活用していると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外にも不明点や不安についてお話を傾聴したり聞いたりして説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見には真摯に話を傾聴し介護記録を通し全職員共有できている。上層部へも内容を共有している。	利用者からは日常の関わりの中で、家族からは面会時や電話で、意向や思いを聞いている。把握した意向や思いは、携帯アプリを用いて職員間で共有する仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見や提案は上層部へ情報共有として伝えている。	職員の意見や提案を、管理者等に伝える機会を設けている。職員とは、会議や日常的に話ができる環境があり、個別の面談もある。職員の意見や提案は、必要に応じ検討され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と管理者で個々の現状の能力の把握を行い上層部に問題等あれば情報共有行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は会議にて月に1度行っている。外部研修は本人のやる気に合わせて行きたいものを提供できるように務めている。またお互いに尊敬し認め合う、よくないところは指摘しあうことでコミュニケーションを図りチームワークでケアしあえるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦中の為相互訪問は行っていないが以前より交流の機会は思うように進んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と密に声掛けや話を傾聴し本人の希望を確認している。介護記録には本人のそのままの言葉を残すようにし言動に隠されている意思を汲み取ろうと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や悩みに耳を傾け不明点などは随時説明を行い連絡を密にとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人、家族から聞き取りを行い職の状態把握をし必要である支援を考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	やれることはできる限り自分で行うよう支えし一緒に何かを取り組み関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員と現状の把握に努め一緒に支えていけるように連絡を密にとって関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為家族以外の方との面談は控えてもらっているが電話等で支援は行っている。	コロナ禍であり、面会は家族に限られている。馴染みの場所への支援も、外出支援と同様に控えており、利用者の気分転換を図るために、ホーム内で出来ること・趣味習慣の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように利用者同士が関われるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてお話を聞いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり利用者様の思いを把握。職員間での情報共有を行い本人らしく暮らすにはどうしたらいいかを適宜検討している。	利用者の意向や思いは、日常の関わりの中で把握し、個別のカルテに記録して職員間で共有している。把握した意向や思いは、検討してアセスメントの更新・介護計画の更新に活用されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみについては家族様からの聞き取りを行い出来る範囲で馴染みの習慣をできることは継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、状態の変化を観察し報告し合い共有してケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況把握に努めアセスメントを行い家族、関係各所と連携を取りながら現状に即した介護計画を作成する努力をしている。	毎月モニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画になるよう見直している。個別の記録やモニタリング結果を基に検討し、サービス担当者会議を開催して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の情報をもとに適宜介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲で柔軟に考えてサービスの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しく暮らせるようにできることを模索しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	院外受診も含め本人、家族様の希望に沿った医療、看護を受けられるように支援できている。	利用者はホーム協力医をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療を受けている。診療時は看護師が同席しており、医師・看護師ともに24時間対応の体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	院外受診も含め本人、家族様の希望に沿った医療、看護を受けられるように支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーとの連絡を取り状況把握に努め退院時のスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様へ説明をしっかりと行い終末期の在り方について、どのように支援できるか、家族の意向も組み話し合い対応を常に検討し支援している。	重度化に対しての指針があり、入居時に説明して同意を得ている。重度化が認められた場合は、話し合いの場を設けて方針を決定している。職員の看取り時の精神的な負担についても、個別面談等を行い、ストレスの軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で定期的に初期対応等を学ぶ機会を持ち適宜状態把握に努めている。実際の緊急時には必要な連絡体制を全職員把握しており連絡はスムーズに取れるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での勉強会を通し必要な知識を身に付け避難訓練を行うことで非常時の避難できる方法、手段やるべきことの共有をしている。	年に2回の防災訓練の実施と、ホーム内での勉強会を行っている。AEDの設置があり、救急救命講習の実施予定もある。町内会との連携が図られ、協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	負の感情になるような話題を作らない。一人一人の自慢や誇りを持っていること的话题を中心に言葉かけをしている。	利用者の尊厳を守り、プライバシー等に配慮した支援に努めている。毎月行われる会議の中で勉強会を実施し、日々適切な対応を指導している。外国人職員への指導も、前向きに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴をしっかり行うように声掛けし職員間で共有、利用者様の思いや希望を聞き取りできる限り行えるように支援しているが本人の思いを組むことが難しい利用者様もいる為試行錯誤している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間等個々に合わせて解除できるように支援している。散歩等の希望もできる限り答えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	適宜声掛けを行いやってきたことは継続できるように支援している。また身だしなみは本人の残存能力を使い衣類の選定をしてもったりして整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる調理や盛り付け、味見などを行い職への興味は引いていると思う。状態にあったものの提供や味付けをしている。食後は洗い物やお盆拭く等のお手伝いをしてもらっている	利用者の力量に合わせ、調理や片付けに参加している。利用者からのリクエストには可能な範囲で応えるように努め、季節に因んだメニューの提供もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に合わせて支援している。偏食や偏ってしまう利用者様にはふりかけや食べれるものを個別購入して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところまでは自分で行ってもらい不足する箇所は仕上げ磨きとして行っている。また口腔内の状況を歯科衛生士と共有し把握してケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時入床時、食事前後のトイレへの声掛け、介助を行うことで一人一人の排泄タイミングの把握をして適宜支援している。	利用者個々の状態を把握し、排泄用品・介助方法など、適切な支援に努めている。夜間でも個々に適した対応を行っている。利用者の羞恥心やプライバシーへの配慮も欠かさない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや食事摂取の面を鑑みて必要に応じて必要に応じて下剤内服しコントロールしている。また適切な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に入浴時間や入浴剤の種類を聞いて個々の状態気分に合わせて支援を行えるように支援している。	週に2回の入浴機会があり、一人30～40分のゆったりした時間をとっている。入浴剤やボディークリームを選べたり、柚子湯や花風呂などの提供も行っており、入浴が楽しく寛ぎの時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の個々の状況に合わせて休息してもらったり就寝時間の調整をし入床前は落ち着いて過ごしてもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を参照しどの薬を飲んでいるかすぐわかるようにしている。必要に応じて服薬の介助を行い毎食症状に変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力が活かせるようにできることはやってもらい習慣化できるようにしている。できないことでもみんなと楽しめるように話しかけやケアを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為施設周辺への散歩程度しか実施できていないが以前は秋祭りや日帰り旅行等の行事で地域の方との交流も盛んであった	コロナ禍によって外出には制約があり、以前のような外出機会の提供は出来ていない。散歩は継続して行っており、利用者に閉塞感を感じさせないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替購入として本人の購入したいものを購入し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ家族との電話や短時間ではあるが面会再開したので家族と関われる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感を取り入れた飾りつけをして季節がわかるようにしたり適宜配置換えをして同じ空間でも好きなところに座れるように配慮している。	コロナ禍により、視察出来ていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置やソファなど好きなのところに座り好きなように過ごしてもらえる空間は作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室配置は必要に応じて本人と話し合いをし職員間で情報共有し配置換えをしている。	コロナ禍により、視察出来ていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等はわかるように掲示し居室は名前を張ることで自分の部屋だとわかるようにしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400351		
法人名	(株)フォーシーズン		
事業所名	グループホームなるみの憩 3階		
所在地	名古屋市緑区鳴海町字向田151		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2391400351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2391400351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年12月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念【ユアライフ～あなたらしい生き方を～】の理念に基づき利用者主体の生活をもとにできる限り自立した生活が送れるように残存能力の維持生活の質の向上に力を入れている。また季節の飾りつけを利用者様と一緒に作り季節感を味わえるように工夫している。

①調理など家事、週に一度の手作りオヤツを利用者様と一緒に作り、やりがいや楽しみの提供出来る事の継続、応用力維持に努めている。

②利用者様個々の生活リズムに合わせた関わりを心がけ施設スケジュールを強要しない。

③健康維持の為食前体操を15分から30分行ったり、日々の散歩で体を動かす機会をとっている。

④月ごとの行事を各職員で担当し趣向を凝らしたレクリエーションやお誕生日会が企画されている。

コロナ禍前は運営推進会議、認知症カフェ、等で交流する場を設けて地域交流をしていた。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員/外国人スタッフへの落とし込みを継続して行っている。徐々にだが理念の共有は出来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状コロナの影響の為地域との交流はほとんどできていないが地域の方がお祭り等のお菓子を届けてくれたり電話で地域の様子を教えてくれたりと交流は持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解や支援してもらえよう挨拶や地域の方と利用者様とが散歩等で会話できる環境にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為開催はしていないが電話連絡を行い定期的に情報共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為控えている状態		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1会議で身体拘束の有無の把握を行い定期的に勉強会も行っている。扉入り口は職員の見守りができる状態では開放するように務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度会議で意見徴収を行い身体拘束、虐待の可否について学ぶ機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で制度についてや必要性について学ぶ機会を作り活用していると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外にも不明点や不安についてお話を傾聴したり聞いたりして説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見には真摯に話を傾聴し介護記録を通し全職員共有できている。上層部へも内容を共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見や提案は上層部へ情報共有として伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と管理者で個々の現状の能力の把握を行い上層部に問題等あれば情報共有を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は会議にて月に1度行っている。外部研修は本人のやる気に合わせて行きたいものを提供できるように務めている。またお互いに尊敬し認め合う、よくないところは指摘しあうことでコミュニケーションを図りチームワークでケアしあえるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦中の為相互訪問は行っていないが以前より交流の機会は思うように進んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と密に声掛けや話を傾聴し本人の希望を確認している。介護記録には本人のそのままの言葉を残すようにし言動に隠されている意思を汲み取ろうと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や悩みに耳を傾け不明点などは随時説明を行い連絡を密にとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人、家族から聞き取りを行い職の状態把握をし必要である支援を考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	やれることはできる限り自分で行うよう支えし一緒に何かを取り組み関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員と現状の把握に努め一緒に支えていけるように連絡を密にとって関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為家族以外の方との面談は控えてもらっているが電話等で支援は行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように利用者同士が関われるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてお話を聞いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり利用者様の思いを把握。職員間での情報共有を行い本人らしく暮らすにはどうしたらいいかを適宜検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみについては家族様からの聞き取りを行い出来る範囲で馴染みの習慣をできることは継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、状態の変化を観察し報告し合い共有してケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況把握に努めアセスメントを行い家族、関係各所と連携を取りながら現状に即した介護計画を作成する努力をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の情報をもとに適宜介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲で柔軟に考えてサービスの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しく暮らせるようにできることを模索しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	院外受診も含め本人、家族様の希望に沿った医療、看護を受けられるように支援できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	院外受診も含め本人、家族様の希望に沿った医療、看護を受けられるように支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーとの連絡を取り状況把握に努め退院時のスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様へ説明をしっかりと行い終末期の在り方について、どのように支援できるか、家族の意向も組み話し合い対応を常に検討し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で定期的に初期対応等を学ぶ機会を持ち適宜状態把握に努めている。実際の緊急時には必要な連絡体制を全職員把握しており連絡はスムーズに取れるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での勉強会を通し必要な知識を身に付け避難訓練を行うことで非常時の避難できる方法、手段やるべきことの共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	負の感情になるような話題を作らない。一人一人の自慢や誇りを持っていること的话题を中心に言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴をしっかり行うように声掛けし職員間で共有、利用者様の思いや希望を聞き取りできる限り行えるように支援しているが本人の思いを組むことが難しい利用者様もいる為試行錯誤している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間等個々に合わせて解除できるように支援している。散歩等の希望もできる限り答えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	適宜声掛けを行いやっていたことは継続できるように支援している。また身だしなみは本人の残存能力を使い衣類の選定をしてもったりして整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる調理や盛り付け、味見などを行い職への興味は引いていると思う。状態にあったものの提供や味付けをしている。食後は洗い物やお盆拭く等のお手伝いをしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に合わせて支援している。偏食や偏ってしまう利用者様にはふりかけや食べれるものを個別購入して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところまでは自分で行ってもらい不足する箇所は仕上げ磨きとして行っている。また口腔内の状況を歯科衛生士と共有し把握してケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時入床時、食事前後のトイレへの声掛け、介助を行うことで一人一人の排泄タイミングの把握をして適宜支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや食事摂取の面を鑑みて必要に応じて必要に応じて下剤内服しコントロールしている。また適切な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に入浴時間や入浴剤の種類を聞いて個々の状態気分に合わせて支援をえるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の個々の状況に合わせて休息してもらったり就寝時間の調整をし入床前は落ち着いて過ごしてもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を参照しどの薬を飲んでいるかすぐわかるようにしている。必要に応じて服薬の介助を行い毎食事症状に変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力が活かせるようにできることはやってもらい習慣化できるようにしている。できないことでもみんなと楽しめるように話しかけやケアを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為施設周辺への散歩程度しか実施できていないが以前は秋祭りや日帰り旅行等の行事で地域の方との交流も盛んであった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替購入として本人の購入したいものを購入し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ家族との電話や短時間ではあるが面会再開したので家族と関われる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感を取り入れた飾りつけをして季節がわかるようにしたり適宜配置換えをして同じ空間でも好きなどころに座れるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置やソファなど好きなどころに座り好きなように過ごしてもらえる空間は作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室配置は必要に応じて本人と話し合いをし職員間で情報共有し配置換えをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等はわかるように掲示し居室は名前を張ることで自分の部屋だとわかるようにしている。		